

代 表 質 問 通 告 一 覧

(令和3年2月菊川市議会定例会)

1 みどり21 (質問者：内田 隆 議員) (答弁者：市長)

① 施政方針よりP 1

2 市民ネット (質問者：倉部 光世 議員) (答弁者：市長)

① さらに前進する菊川市の可能性P 4

令和3年2月22日

菊川市長 長谷川 寛彦 様

菊川市議会議長 松 本 正 幸

代 表 質 問 に つ い て

令和3年2月菊川市議会定例会において、次の質問をされる予定であるから、あらかじめ通知いたします。

会 派 名 : みどり21	
質 問 者 : 内 田 隆	
質問事項1 : 施政方針より	
<p>【質問要旨】</p> <p>令和3年2月菊川市議会定例会に臨み会派みどり21を代表し質問を致します。</p> <p>世界中に大きな不安を与えている新型コロナウイルス感染症の発生が報道され一年余りが経過した中その原因究明やワクチン開発等世界中が取り組んでいます。しかしその後におきましても変異株のウイルスが発見されたり、緊急事態宣言等により感染者数は減少傾向ではあるが、いまだに感染者数が多く確実に終息に向かっているとは言い難い状況にあります。新型コロナウイルス感染症は人が接触することにより拡大拡散するとされ、今日まで発展を続けて来た人類の経済活動を含む生活環境に大きな影響を与えています。世界中の全ての人がこの状況を自覚し一日も早い終息を願うばかりであります。</p> <p>こうした中菊川市では本年1月の選挙におきまして長谷川新市長が誕生し今後の菊川市の舵取りを任せられました。そして私達議員もそれぞれ公約を掲げ選出され、この場に立っています。今後は誰しもの菊川市を愛し発展を願い是々非々論で議論をされて行くものと思っておりますのでよろしくお願い致します。私達みどり21も12名の議員で今議会に提案された施政方針や市長公約等を話し合い、次の点について市長のお考えを伺いますので、明確な回答が頂けますことを期待致しまして質問に入ります。</p> <p>1点目は新型コロナウイルス感染症対応であります。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況については先程述べたとおりであります。菊川市におきましても各種の影響が出ております。全国の地方自治体では、国や県の施策への対応だけでなく市内における悪影響を少しでも少なくするため独自に施策を打ち出し、結果としてその施策が国や県の支援策となっている状況が多く見られます。財政的にも厳しい中で打ち出した独自の支援施策が国や県の支援策につながるかは不透明であると思っておりますが、市民や</p>	<p>【答弁者】 市 長</p>

市にとって1番困っている部分や悪影響の可能性のある部分に対し、どう対応していくかが大事であります。

現在の状況や今後の悪影響をどう予測し対応しようとしているのかを伺います。

2点目は菊川市のまちづくりについてであります。

日本全体でも人口の一極集中が続き地方によっては大変厳しい状況に陥っている所もあります。また、地方においても自治体の中で同じ傾向となっている自治体が沢山あります。そんな中、菊川市におきましては小学校区を大切にしながら均衡ある発展を目指し、13地区に地区センターを建設し地域毎に独自の活動による地域づくりを行い各地に住み良い地域ができることにより、結果として菊川市全体の住み良さの評価につながる考えでまちづくりが進められて来たと考えております。

財政事情等により行政の効率化を優先すれば分散より集中化の方が結果は明らかで、そのバランスは大変難しいものであるはずですが。財政状況も決して楽ではない中、今後におきましても選択と集中の予算組みは必須条件であるはずですが。

こうした中、市長の今後におけるまちづくりの方針を伺います。

3点目は菊川茶についてであります。

牧之原開拓から150年、JR菊川駅開駅から140年近くなる中お茶は直接的に間接的に現在の菊川市を発展させて来た基幹産業でありました。直接お茶を生産したり加工販売する人は元よりお茶の機械の製造・修理等の茶関連産業やそこで働く人達により消費購買力も向上し商店の活性化にもつながってまいりました。

また昨今、地元では当たり前前の茶園風景が初めて見る人にとってはその緑が大きな感動を与えるようで菊川市の魅力の一つになっています。こうした基幹産業でありましたお茶の産業が今後も末長く続くことを願って合併時の目標にも「みどり次世代」の言葉が使われていると思います。しかしその特産でありましたお茶が価格の低迷により大変厳しい状況に陥っています。価格の低迷は産業としての魅力を失い後継者不足となり今までのような管理が出来ず荒廃茶園を生み鳥獣被害も多発する要因となっています。

こうした状況の中、市長は今後における菊川市のお茶についてどのような対応を考えているか伺います。

4点目緑化を中心としたまちづくりについてであります。

前期の総務建設委員会の研究テーマは菊川市における緑化推進でありました。

菊川市は横地城跡等いくつかの史跡はあるものの観光客を呼び寄せるような歴史的遺産や特筆される海や湖、山も無く観光客数

や知名度は決して高くありません。しかし市民アンケート等によれば住み良さについては高い評価を受けその理由の一つに緑の豊さが上げられています。市長は魅力の発信を大きな目標に掲げられていますが、この緑の豊かさを武器にまちづくりを進めれば市長に言われる「話題や魅力は待っていても生まれない」につながりますし、やり方によっては「共に汗をかき市民と行政が共に取り組むまち」にもつながっていくものと考えます。

合併時の目標「みどり次世代」を継承していく上でも緑化を中心としたまちづくりは菊川市にとって重要な課題と考えますが市長の考えを伺います。

5点目は予算財政についてであります。

菊川市の令和3年度当初予算は歳入・歳出とも前年比6億8,100万減の191億500万円となっております。歳入につきましては基幹となる市税を約5億9,700万円減の65億6,200万円余とし地方交付税は1億4,500万円増の21億7,000万円を見込み起債は臨時財政対策債11億3,000万円余を含む22億874万円で前年比1億1,100万円余の増となっています。更に不足分を財政調整基金から3億9,300円余を繰入、結果として自主財源比率46.29%依存財源比率53.71%となっています。

歳出につきましては民生費が前年比3億3,000万円余増え占める割合も30%弱となり、衛生費も2億5,600万円余、公積費1億1,100万円の増となっています。逆に特別な補助事業で伸びた農林水産業費と積み立てのあった総務費は別として土木費で5,500万円、教育費で5,900万円の減額となっています。

令和3年度の予算について市長はどのような課題があり今後その課題に対しどのような対応を考えているかを伺います。

また確実な自主財源確保の為には欠くことができない企業誘致についての考え方についても併せ伺います。

会 派 名 : 市民ネット	
質 問 者 : 倉 部 光 世	
質問事項1 : さらに前進する菊川市の可能性	
<p>【質問要旨】</p> <p>この一年は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響で、今の社会の危うさが浮き彫りにされた不安と混乱の一年となりました。今までに経験したことのない事態の連続で、経済活動へも大きな影響が出ています。私たちの暮らしも日常の生活様式も変わり、家族のあり方、働き方を考える機会が生まれ、人生の価値観までも変化するに至りました。しかしながら、地域・自治体はここで立ち止まるわけにはいかず前を向いて進んでいかななくてはなりません。令和3年度は、菊川市もWITH/AFTERコロナを見据えた新しい動きを長谷川新市長と共にスタートすることとなります。「さらに前へ！住みたいまち菊川市！！」をスローガンに掲げ、令和3年度は公約された5つのチャレンジのうち「新型コロナ対策」「魅力の発信と移住定住の推進」を特に意識されたという予算編成が上程されました。新型コロナ禍で先の見通しが危ぶまれる中、財政運営については新しい視点が必要となってきています。成長が根底にあり積み上げられてきたものを再評価し、必要なものは残し、無駄をなくすための知恵を使った事業の統合、やめる決断も迫られます。行政に求められる福祉や教育などの公平公正さは重要なことではありますが、自治体のPRのような点にはスピード感と特化するという考え方も要求されてきます。いかにお金をかけずに成果を上げるかという言葉に象徴されるような市長の人となり、その手腕に市民の多くの期待が寄せられています。以下の8つの点について詳細内容を参考にされた市長なりのお考えを伺います。</p> <p>1. 職員意識の向上、体制のあり方についてのお考えを伺います。</p> <p>新しい発想を持てる職員の育成。ミスやリスクチェックを全体として行うことが必要とされる内部統制体制の導入。重複する事業やお茶のように長年課題になっている問題は担当課に任せるだけでなくプロジェクト化していくなど縦割り組織の見直し。若手の意見の取入れや中央省庁や企業へ送り出す等長い目で見た育成の必要性。より専門性が必要とされるDXと言われるデジタル化や危機管理、シティプロモーション等へ外部から専門官を登用し専門職員の育成を図る点などについて。</p> <p>2. 住民の意識改革にもつながる対話によるまちづくりの実現について伺います。</p>	<p>【答 弁 者】 市 長</p>

これまでの右肩上がりの経済成長期にはトップダウンの方式により標準化、効率化された行政運営が主体でしたが、特にコロナ禍では、社会、価値観の多様化により、縦型ネットワークが機能しにくくなっています。重点事業の見直しには市民と行政のパートナーシップが求められてきます。自治基本条例の制定や多様な人が自由に話せる対話の場を社会の中に多く作りまちの課題を市民が自分事として考える機会を整えることの必要性について。

3. 東京オリンピック・パラリンピック組織委員会についての発言でも問題となっています行政組織、審議会、地区自治会組織、防災組織等への女性の登用や多様性を尊重するまちづくりについてお考えを伺います。
4. 実効性のある防災・減災対応についてのお考えを伺います。
マイタイムラインの推進での意識向上とありますが、併せて災害に備え高齢者や障害者らの避難方法などを事前に決めておく個別計画の策定し地域で共有することで弱者を把握すること。小中学校と自治会が連携した避難訓練や実際の災害時に役に立つ避難所運営を中心とした避難訓練の必要性について。
5. 文化・菊川市の歴史への思い、対応について伺います。
市民満足度、重要度共に低い文化、歴史について。子どもから高齢者までが関われる生涯学習の推進を含めた菊川市ならではの文化・歴史の見直しをすることが求められている点について。文化会館アエルを中心とした文化の醸成について。
6. シティプロモーション・移住定住促進・観光施策について伺います。
「話題や魅力は待っていても生まれにくい」情報発信、交流人口だけでなく関係人口を増やすための施策。移住対策の空き家対策とリノベーション支援事業の必要性。文化・歴史と絡めた近隣市町とも連携した観光施策の必要性について。
7. 我が事・丸ごとの地域共生社会に向けた取り組みについて伺います。
自治会やコミュニティ協議会、縦と横の連携を重ね合わせた学びの庭構想など総合的に市民が協力し合って菊川の子どもを育て、共生していく仕組みづくりを改めて見直すことの必要性などについて。
8. SDGs への取り組み、環境問題への取り組みについて伺

います。

地域自然エネルギーを富に変える取り組み等で菊川市は循環型持続可能なまちを目指さなくてはなりません。環境自然に配慮した公共施設の考え方、カーボンゼロ宣言などについて。